

# ひびき

No. 1

ドラム缶工業会会報



理事長  
鋼管ドラム(株)取締役会長  
伊藤 稔

『ひびき』の発刊に当り  
昭和27年9月、現在の「ドラム缶工業会」が発足して、本年9月で、満40年となります。この間、日本経済の発展と共に、当初、年産100万本程度の200ℓドラム缶は、平成3年度には1300万本に達しようとし、ペール缶も、5万缶から、2700万缶と飛躍的に増加いたしました。  
ひとえに、スチール容器をご愛顧・ご支援下さった、需要業界各位のお蔭でございまして、心から感謝いたしております。

昨今、国際的に最重要課題となった環境問題に関連しまして、スチールドラム・ペール缶の役割は一層重要となり、当工業会も真剣に取り組んでおります。これら工業会の活動内容や、スチールドラム・ペール缶の特性等をご理解いただき、需要業界とのパイプをより大きくするため、工業会報『ひびき』をお届けすることとしました。  
ご愛読下さり、一層、ドラム缶・ペール缶をご愛用いただき、また種々ご叱声・ご支援をいただければ、大変幸いに存じます。



業務委員長  
川鉄コンテナ(株)  
常務取締役  
芦田 惇

当委員会は会員相互による需要予測や共通の諸問題を討議していくことを主な目的としております。ドラム缶・ペール缶等は大変幅広い需要分野に支えられ、お蔭さまで堅実な発展を続けておりますが、一方昨年来、物流・リサイクル等重要な課題に直面し、問題解決にも取り組んでおります。今後とも需要家の皆様方のご理解とご支援をまことに申し上げます。



技術委員長  
日鐵ドラム(株)  
常務取締役  
南 徹

従来からJIS改正、危険物容器規制への対応を中心にドラムの品質適正化を進めてきました。最近ではさらに、ドラムの清浄度評価法、日金の適切な選択法のような品質要求高度化への研究や、コストその他の生産技術上の諸問題を共同で研究しています。今後もドラムの価値を高めるための技術的課題に積極的に取り組んでまいります。



総務委員長  
鋼管ドラム(株)  
常務取締役  
吉本 洋司

総務委員長としての在任は1年間の短期でしたが、この間、「工業会の組織・運営の見直し検討」という大任を下命され、皆様のご協力を得てやっと答申を済ませたところです。見直し検討のキーワードは、「工業会に期待される役割は何か」。答えは「個別企業では対応し切れない事象を工業会が前向きに受けとめること」でした。今回の会報発行は、まさに1社ではできない重要事です。永續と発展を祈ります。



広報委員長  
鋼管ドラム(株)  
取締役  
相川 裕道

当工業会では、これまで広報活動は遺憾ながら、ほとんど怠ってまいりました。これを反省して、鋼製ドラムのイメージアップを狙い、会報という形で、私の任期終了間際で、創刊号発刊に漕ぎつけることが出来ました。

これを緒に、当会を発信源とした我々のお願いが、各界にひびき、お聞き届けいただけるよう祈念しております。



危険物容器対策委員長  
(株)山本工作所  
常務取締役  
山下 和久

ようやく発刊にこぎつけた1号誌です。危険物収納容器としてのドラム缶の正しい利用法、美しく優しい使い方のお手伝い出来るよう、精一杯の努力を続けます。末永くのご愛読をお願い申し上げ、いろいろご意見を頂戴したいと思います。



国際会議対応委員長  
日鐵ドラム(株)  
取締役社長  
安藤 成海

日・米・欧三極によるドラム国際会議の第2回が今年9月イタリアのフローレンスで開催されます。ドラム缶は国際流通容器であり当然国際的共通課題を数多く持っています。相互に必要な主張をし、適切な分担を引受け、積極的に協調し合いながらドラム分野の発展と国際協力の実を挙げなければならぬのです。そのような意味で、我々も今度の国際会議には万全の体制で臨むべく、工業会あげて準備を進めています。

# NOTE

## ドラム缶の国際標準化の検討 理念には賛成なれど 日本JISは不利な立場

最近、ドラム缶工業会が取り組んでいる問題に200ℓ鋼製ドラムの国際標準化がある。危険物などの輸送・貯蔵用として最もポピュラーなドラム缶は、全世界で年間1億3000万本製造されている。このドラム缶が域内間の流通容器から、その輸送範囲は拡大し、国際的に錯綜するようになった。

当然、その場合、国際的に統一規格で標準化された方が良いこととなる。ただ世界の主流は北米や西欧の55ガロン入りのドラム缶である。

### 環境問題からも

スチールドラムは元来、再利用可能な容器であり、使い捨て容器による、ますます増大するゴミの量を、環境問題に対する現代の風潮からも減少可能な、地球に優しい容器として再認識されてきた。

製造されたドラム缶が何回も再使用され、ライフサイクルが高まり、最終的にスクラップダウンして、これが100%鉄資源となる。しかもそれに要するエネルギーは鉄鉱石からの製鉄法に比し65%で、経済性からも最も有利な容器である。

### ライフサイクルを高めるには

世界中が全く同一規格、同一寸法のドラム缶を使ったら良いのではないかと結論に行き着くだろう。

かつてヨーロッパでは各国で、それぞれの寸法で製造されていたが、国境が地続きなので、鉄道やトラックでの安全な輸送をめざし、規格化されて、EN-210(216.5ℓ入り)で現在では年間4000万本のドラム缶が製造されている。またアメリカではDOTの規格(55米ガロン)により年間3700万本が、わが日本ではJIS(200ℓ)により完全に標準化され1300万本のドラム缶が製造されている。

### 欧米 対 日本

前記3極で全世界の生産量の7割を占めるのであるが、残り3割についても、3種の規格のいずれかに準拠して製造されている。したがって、この3種の規格が統一されれば解決するのであるが、見た目と同じドラム缶も、寸法などは詳細は異なっている。

ヨーロッパとアメリカ、いわゆる欧米のドラム缶の寸法は著しく似通っていて、ズングリむっくりであるのに対し、JISのドラム缶は、小ぶりでスマート、充填口の位置が天板中央に寄っているのが特徴である。

### 日本の現状

日本ではJISにより完全に標準化されたドラム缶市場に供給されているために、運搬、保管、充填、荷役から洗浄更生の仕事が標準化、自動化されている。

化学製品の貿易量は、日本化学工業協会の年報によれば、欧米向輸出額は54億ドルに対し、欧米からの輸入額は117億ドルである。その荷姿が諸々であろうがドラム缶での貿易量も、それに比例しているものと考察できる。

現に、輸入化学品等の空きドラム缶は欧米サイズが多く、日本の標準的な洗浄更生ラインに乗らないものが増えてきた。これらは廃缶とされてきたが、昨今のスクラップ市況の悪化から、廃棄物として処理料を支払わなければならない事態となった。

### 国際協調は関係業界のコンセンサスが必要

1タイプに標準化されることがベストであるが、ドラム缶に関わる業界、即ち製造業者、輸送業者、更生業者、需要家(充填業者)が国際的にコンセンサスを得なければならない困難さがある。それを押し進める過程で欧米のユーザーから、日本の化学品などのメーカーに対し、容器を欧米サイズに指定される懸念があるが、その場合、我が国ドラム缶メーカーは現状では生産できないので問題である。

このような状況の中で、欧米のドラム缶工業会より、国際標準化の作業について強い要望があり、3極工業会のワーキンググループとして協力検討中である。この中で当工業会は、前記の日本の立場をふまえて、国際標準化の目的は何なのか、またそのために標準化すべき点は何であるかということをはっきりと主張し、こうした条件の中で本当に世界中のユーザーにとって価値のある標準化をめざして我が国の需要業界、更生缶業界等関係の皆様のご協力をいただきながら、取り組んでいる。



## 5年ぶりに前年度を下回る

平成3年度（1991年度）のドラム缶生産は、前年度比1.1%減の36万6千284トン、出荷も同比1.0%減の36万6千409トンとなり、前年度の生産・出荷37万トンをピークに、昭和61年度（1986年度）以来5年ぶりに前年度実績を下回り下降局面に転じた。

この出荷を、缶種別・用途別にみると表-1に示す通りである。

このうち、200ℓ缶の出荷本数は、前年度比1.1%減の1,282万2千本で、うち162万6千本（12.7%）が間接輸出に向けられており、多重巻き缶は45%である。

また、ペール缶は、同比0.2%減の2,695万3千本であったが、缶種別の構成比は、ラグペール70.6%、バンドペール17.2%、タイトペールが12.2%となっている。

# DATA FILE

表-1 平成3年度ドラム缶缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

用途 缶種	石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	対前年度比	
	200 Q 缶	2,216	9,272	795	253	286	12,822	98.9(%)
ペール缶	13,886	10,244	1,919		904	26,953	99.8	
100 Q 缶	20	165	5		1	191	80.2	
50 Q 缶	3	235			6	244	59.2	
20 Q 缶	2	459				461	76.5	
アス缶型	8	11				19	79.8	
その他容量缶	8	884	微		13	905	112.9	
垂鉄板鉛缶	200 Q		201	6	1	13	221	134.8
	その他		348	2		8	358	179.9
スレテンス	200 Q		10	12			22	110.0
	その他		9			2	11	157.1
合計	16,143	21,838	2,739	254	1,233	42,207	-	

## COLUMNS

最近、ゴルフのベットのハンドレイを加味しない安直さから、オリムピックが流行っている。

グリーン上で遠い順に、金・銀・銅・鉄とワンパットホールアウトに与えられるものだが、その4つ

のメダルを全て獲得すると、サイクルヒットとしてプレミアムを付けることもある。

当工業会員の、ある社長さんが18H中10Hがワンパットというパター捌きで、2サイクルを打ち、

スコア順位に関係なく、同業社長さんから、大量にチヨコレートを撒き上げたという。いやはや、グリーン上でも競争の熾烈な業界だ。





秋田ドラム工業株式会社

当社は東北・北海道地方で唯一のドラム缶メーカーです。昭和28年JIS工場の指定を受け、主として石油需要向の各種ドラム缶、アスファルト缶及びびりき板製18ℓ缶を製造してきました。

しかし第一次、第二次の石油危機を経過してドラム缶の需要構造が大きく変化しました。当社ではこの需

要構造の変化に対応し石油以外の需要の開拓に積極的に取り組んでいます。ライン生産のオートメーション各社が取り上げない多品種少量の需要や特殊缶、溶接缶の生産等であります。近年ドラム缶の用途種類も多様化し内容物も化成品、食料品、鉄加工品、容量も20ℓから220ℓ、型式もクローズ、オープン、複合缶など各種の容器を製造しております。またLPG配管工事、更生缶の製造販売、家庭用焼却炉の製造販売の他、LPGボンベや家庭用石油貯蔵タンクなどの販売も取り扱っております。

## 大阪工場



株式会社 大阪製罐所

当社は創業70余年間業界のパイオニアとして、また容器の総合メーカーとして活動してまいりました。とくに200ℓにおいては特殊缶の比率が大きく中・小型缶の分野ではトップメーカーとして、さらにステンレスドラムにおいては大中小型の広範囲の容量を生産しており、以上はスチールドラムであります。包装資材の多様

化に対応して各種容量・サイズのファイバードラムを枚方・名古屋・千葉・富山・長崎の5工場、加えてプラスチック製品、とりわけ昨今脚光を浴びてまいりました1トンコンテナを千葉・大阪・長崎の3工場生産しております。世界状況の変化の一環として、最近では国際的にも危険物輸送に関する規制が強く叫ばれてまいりまして、より安全で良質な輸送容器の生産・販売に努力を重ねております。

## 伊丹工場



川鉄コンテナ株式会社

当社は、ドラム缶をはじめとし、バール缶、18ℓ缶、ガスシリンダー、1トンコンテナなどを製造・販売している総合容器メーカーであります。

容器とは  
“ものを入れるうつわ”  
“いれもの” (By:広辞苑)  
ですが、“器”という字は“大器晩成”“あの人器が大きい”“大臣の器”

……という風に、容量から才能をも意味する言葉に使われています。

当社も、“会社の器”を広げるために、お客様のニーズにお応えすることはもちろん、新しい分野への挑戦、社会で必要とされる価値を創造することを基本的理念として経営活動を展開して行きたいと考えております。

皆様のご愛顧のおかげで、昨年、30周年を迎えることができました。

\*\* ありがとうございます。 \*\*

## ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町  
3-2-10(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141

FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社  
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

O.S.K. 株式会社大阪製罐所  
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601

川鉄コンテナ株式会社  
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

協和容器株式会社  
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371

鋼管ドラム株式会社  
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711

斎藤ドラム缶工業株式会社  
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881

山陽ドラム缶工業株式会社  
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

新邦工業株式会社  
東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285

大同鉄器株式会社  
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

東邦シートフレーム株式会社  
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

株式会社長尾製缶所  
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

株式会社新潟容器製作所  
新潟市新崎336-7 ☎ 025-259-3201

日鐵ドラム株式会社  
東京都中央区銀座1-7-10 ☎ 03-3562-0251

株式会社前田製作所  
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

森島金属工業株式会社  
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 0434-98-3551

株式会社山本工作所  
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

株式会社ユニコン  
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.1 (平成4年6月22日発行)

発行人 ドラム缶工業会  
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。